

自然エネルギー信州ネット ファイナンス部会 FINANCE

運営 方針

ファイナンス部会においては、県内各地で採算性の取れるMadein信州の自然エネルギーのビジネスモデルづくりを支援し、事業における資金調達に関する条件整備について研究するものとする。

その他、市民ファンドの作り方、自然エネルギー普及事業への官民連携（PPP）についても研究の対象とする。

活動目標

事業者が自然エネルギー事業を検討する際に活用でき、また金融機関が自然エネルギー事業に融資する際に活用できる自然エネルギー事業の評価基準（経済面、環境面、社会面を含む）を研究し、情報収集や勉強会を行う。

将来は、モデル事業における融資判断の研究（24年度）、モデル事業の成果による融資基準の一般化（25年度）を目指す。

ファイナンス部会活動計画

自然エネルギー事業は、初期投資の調達方法がネック

プロジェクトファイナンスの融資基準の研究

モデル事業により研究し、融資基準の一般化

その他、
市民ファンドの作り方、
官民連携（PPP）などを研究

ファイナンス部会の取組み

勉強会の実施

●平成23年12月16日 第1回勉強会

テーマ:金融機関からみた自然エネルギー事業への融資について

講師:国際協力銀行 金融業務支援部 稲澤泉氏

内容:

- 1) ファイナンスの種類
- 2) プロジェクトファイナンスの概要
- 3) 融資のための一般的なステップ
- 4) キャッシュフローコントロール
- 5) 主要リスクとリスクコントロール手法
- 6) 地域コミュニティに支持される案件であること

●平成24年2月7日 第2回勉強会

テーマ:事業者の立場からみたプロジェクトファイナンスについて

講師:日本風力開発株式会社 代表取締役社長 塚脇正幸

内容:

- 1) プロジェクトファイナンスとは?
- 2) プロジェクトファイナンスに向いているプロジェクトは?
- 3) 当社の失敗
- 4) 失敗から今後へのヒント



H23のまとめ

- 融資と市民出資を含めた資本金には、それぞれに性格がある。組み合わせで資金調達する。
- プロジェクトファイナンスは、事業そのもののキャッシュフローについて、融資判断をするものである。
- ただし、プロジェクトファイナンスであっても、事業経験があることや、スポンサーがしっかりしていることを求められることが多い。ノウハウやスポンサーなど、足りない要素は、様々な主体の協力を得ながら別の要素でカバーすることが大事となる。
- プロジェクトファイナンスの特徴として、仕組みをつくる開発コストが高い、状況の変化に対応が難しい、事業開始当初に運転資金が別途必要といったことがある。
- 風車の場合メンテナンスにコストがかかる。メンテナンスの組合を作るなどコスト削減が必要。
- キャッシュフローの元となる制度や期間について厳しく見積もっておき、万が一制度変更があった場合のリスクを貸し手にも共有してもらう必要がある。

プロジェクトファイナンスといっても、単純にキャッシュフローを組んで融資を受けるわけではなく、キャッシュフローには現れない足りない要素を多くの協力を得て克服しつつ、制度変更にも備えて余裕をもった設計をしておく必要がある。

明確な融資基準は容易には得られないが、モデル事業により実際の経験を積んでいく必要がある。